

令和5年度 第1回菊川市介護保険事業計画等推進委員会
第1回菊川市地域密着型サービス運営委員会
第1回菊川市地域包括支援センター運営協議会
会議録

開催日時：令和5年6月13日（火）13：15～14：30

菊川市役所東館 301 会議室

出席者：委員 13 名

1. 開会

定刻になりましたので、ただ今から会議のほうを開催させていただきます。初めに本日の出席者でございますけれども、小笠医師会代表の福地委員、及び菊川市健康づくり推進委員会副会長の池田委員、株式会社ミクニ菊川事業所人事総務室静岡人事総務グループリーダーの角替委員におかれましてはご欠席の連絡をいただいております。また、小笠医師会代表の宮城委員につきましては、Zoomでご出席のご予定で、後ほどお見えになっていただけるかと思っております。現在、委員16名のうち、12名の出席をいただいております。委員の過半数の出席となっておりますので、菊川市介護保険事業計画等推進委員会要綱第6条第2項の規定により、本会議が成立することをご報告させていただきます。なお、本日の会議時間ですけれども、1時間半ほどを予定しておりますので、議事の進行等、ご協力をお願い致します。

それでは、ただ今から、令和5年度 第1回菊川市介護保険事業計画等推進委員会、第1回菊川市地域密着型サービス運営委員会、第1回菊川市地域包括支援センター運営協議会を開会致します。初めに、事務局を代表しまして、原田副市長よりご挨拶申し上げます。

2. あいさつ

副市長：改めましてこんにちは、副市長の原田でございます。事務局を代表しまして、一言ご挨拶申し上げます。本日は、ご多忙の折、本会議にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。また、日ごろより、介護保険事業、高齢者保健福祉事業の推進にご理解とご協力をいただき、重ねて御礼申し上げます。さて、本年度は、令和6年度から3年間を計画期間としました、第9期の介護保険事業計画並びに第10次高齢者保健福祉計画を策定する年度にあたります。委員の皆様方、それぞれの立場から、忌憚のないご意見を頂戴しまして、それらをできる限り計画に反映していきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。平成12年4月に始まりました介護保険制度につきましては、既に20年以上が経過しております。その間、人口構造の変化、少子高齢化、核家族化の進行、地域のつながりの希薄化、最近ではコロナということで、社会の状況もだいぶ変化しております。それに伴いまして、皆様のニーズも多様化、複雑化してきております。また、策定をお願いする計画の計画期間中になります2025年には、いわゆる団塊の世代の皆様が75歳以上になり、菊川市でも全国的な傾向と同様に高齢化率が上がっていくことが予想され、介護保険ニーズ、需要の増加も見込まれるところでございます。介護保険

制度におきましては、誰もが住み慣れたところで、最期まで自立して暮らしていくことができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括支援システムの構築を、地域に求めているところでございます。今後、介護保険制度の変化が見込まれる中で、菊川らしい地域包括支援システムとなるよう、委員の皆様からご意見を頂戴したいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。今後とも、本市の介護保険事業、高齢者保健福祉事業の推進にあたりまして、格別なご指導とご協力を賜りますことをお願いさせていただきます、事務局を代表しての挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願い致します。

3. 委員紹介

事務局より、今年度より新たに委員になった方の紹介。

菊川市ケアマネジャー協議会副会長 菅沼直美氏

シニアクラブ菊川会長 三浦實氏

菊川市健康づくり推進委員会副会長 池田宏子氏

4. 委員長、副委員長（会長、副会長）選出

事務局一任により、委員長は菊川市社会福祉協議会会長の大橋眞佐美氏、副委員長は小笠地区民生委員・児童委員協議会会長の杉山茂氏を選出。

5. 委員長、副委員長（会長、副会長）あいさつ

委員長：改めまして皆様こんにちは。委員長を仰せつかった大橋でございます。現在私は、菊川市社会福祉協議会の会長を務めておりました、地域福祉の活動や介護事業の運営を行っているところでございます。そういった経験を生かして、この委員会と介護保険事業計画と高齢者保健福祉計画推進のお役に立てればと考えております。団塊の世代が75歳以上となる2025年を含む、今後の3年間を決める重要な会議であり、身の引き締まる思いでございます。高齢化社会、人材不足、多様化するニーズへの対応など、介護保険を取り巻く状況は大変厳しいものになっております。高齢者のみならず、市民の皆様が、今後も住み慣れたまちで暮らし続けていくために必要な素地を作るため、皆様と一緒に良い計画を策定するお手伝いできればと考えております。今後3年間、どうぞよろしくお願い致します。

副委員長：民生委員の杉山でございます。どうぞよろしくお願い致します。

6. 議事

(1)介護給付費の状況について

事務局より説明。

<質疑応答>特になし

(2)第9期介護保険事業計画・第10時高齢者保健福祉計画の策定について

(3)令和4年度菊川市高齢者の暮らしと介護についてのアンケート
事務局より説明。

<質疑応答>特になし

(4)菊川市介護保険事業計画策定等ワーキンググループ

事務局より説明。

<質疑応答>

委員：資料3は高齢者の実態調査、資料4は介護に携わる人たちの調査、これをどう分析していくか。関連はどうか。資料4は重い意見だと思うが、これが現場の職員研修などに今後、活かされていくのかどうか。問4、問5にある待遇や環境改善はどう考えるか。

事務局：今後、ワーキンググループ会議などで示しながら検討していく。また、アンケート結果を事業所連絡会等で結果を公表することは想定していないが、新計画の説明は行っていく。問4、問5の処遇部分については市だけではできないが、職場環境の改善は求められている。市町村は情報提供などで協力しながら行っていく。

委員：副市長は「菊川らしい」ということをおっしゃった。国の基準はあると思うが、そういうところで「菊川らしさ」があると良い。菊川の介護施設で働くところに働きがいがある、というような。

事務局：国の制度に則って進めてきたが、これまで取り組んでいないものにも取り組んでいき、各事業所に対しても伝えていきたい。

委員：まず、どのような地域にしたいのか。誰のため計画か。若い人たちのためにもならないといけない。先祖から受け継いだ土地であるという考え方と、子孫から借りている土地であるという考え方、両方の視点で考えないといけない。子孫にどんな社会システムを残せるか、だと思う。だから、この計画が若い人たちのための計画でもあってほしい。どのような地域にしたいのか、しっかり言葉に表現してほしい。私の病院は、「助けて」が「ありがとう」と同じくらい自然に出るようにしたいと思っている。弱さを見せられる組織ほど強い。「助けて」と言うのは「恥ずかしい」、「申し訳ない」と思うが、助けてあげるほうも、助けてあげることで幸せになれる。他の人のためにやったことが自分のためになっている（自利利他円満）。これは地域でも同じではないか。ヤングケアラーなどは典型で、声を出せない、誰にも言えない。言葉にすることで現実になるので、言葉にすることがとても大切ではないか。内側に抱いてる想いをしっかり言葉に出すことはとても大切なので、皆で考えるべきことだと思う。

(5)地域密着型サービスについて

事務局より説明。

<質疑応答>特になし

(6)地域包括支援センターの運営について

事務局より説明。

<質疑応答>

委員：要望だが、民生委員からこんな発言があった。一人暮らしの高齢者の具合が悪くなった。家族に連絡しようとしたが地域包括支援センターに聞いても個人情報ということで断られた。一刻を争うような場合には、包括支援センターと連携を取って、確実に民生委員だとわかったら情報提供のご配慮をお願いしたい。

事務局：おっしゃる通り対処できるようにしていきたい。

委員：(3)の人材育成だが、新規・中途の有資格の職員を採用してはどうか。わざわざ出向しなくてもよくなるのではないか。検討してほしい。

事務局：職員の募集は総務課で対応している。この制度では、出向した方が資格を取得して、お戻りなる。

副市長：一般論としてだが、社会人経験者として資格を持った方の採用も行っている。欲しい人材はどの自治体も同じで、取り合いになっている。職員の確保に取り組んではいるが、ご理解いただきたい。

(7)その他

次回日程について

今回は、令和5年7月27日(木)13:15から東館301会議室を予定しています。

委員：若い世代の意見を重視してほしい。1985年以降に生まれた人たちは感覚が違う。これからのこの地域を支えていく人たちの意見がつぶされないようにしてほしい。優しすぎても刺激がなさすぎてもダメだし、上司としてちょうど良いストレスをかけて、それがやる気につながるので、そういう若い人たちの意見を計画に反映してほしい。それが菊川らしさだと思う。どう意見を吸い上げるか、きちんと考えてほしい。

7. 閉会

以上をもちまして、令和5年度第1回菊川市介護保険事業計画等推進委員会、第1回菊川市地域密着型サービス運営委員会及び第1回菊川市地域包括支援センター運営協議会を閉会致します。